

大会長 ご挨拶



第36回 三重県理学療法学会

大会長 中立 大樹

伊勢赤十字病院

地域におけるリハビリテーションの果たす役割は年々多様化しており、医療・介護・福祉の各現場では専門職同士の連携のみならず、施設間や地域社会とのつながりの重要性も高まっています。その必要性は教育分野や自治体の取り組み、地域住民の健康づくり、さらには企業と協働する健康経営など、幅広い領域へと拡大しています。こうした広がりの中で、現代において理学療法士は一人の知識と技量だけで十分に責任を果たすことはできず、患者様の回復や地域の健康を支えていくためには医療・介護・地域社会など多様な分野との連携が不可欠となってきたことを日々実感します。「連携」により私たちは、多くの人々と交わり未知の知識に触れ、自らの役割を再認識し、より磨かれた実践へとつなげていきます。そして、そうした積み重ねが、より質の高いリハビリテーションを形づくり、その価値を今後さらに高めていくものと信じております。

そこで本学会では「連携」～ 広がりで磨かれるリハビリテーションの価値～ をテーマに掲げ、今そしてこれから広がる様々な連携を多くの会員に届けたいとの思いから、企画を準備いたしました。特別講演では、三重大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学分野 教授 百崎良先生をお迎えし、多職種連携を進めるための実装戦略についてご講演いただきます。三重県理学療法士会会長 南出光章先生からは、これまで必ずしも身近とは言えなかった政治参加の意義や現状についてご講演いただき、その理解を深めていただきたいと思います。そして、シンポジウムでは、委員会企画として「心不全」と「脳卒中」のそれぞれの分野での連携をテーマに、会場と一体となり多角的に議論できるようにしたいと考えています。他にも会場内には「県土会ブース」を設置し、会員の皆さまが気軽に三重県理学療法士会の取り組みを知っていただけるようにし、「親子室」も設け、一部の企画には親子でも参加できるよう工夫することで、子育て世代の会員も本学術集会を通じて交流やつながりを感じていただけるようにします。

新型コロナウイルスの流行期には人と人との交わりが制限され、思うように連携を取ることができませんでした。しかし今、交流が再び盛んになる中でこそ、広がり磨かれる多様な連携を実感し、その意義を学び、共に地域リハビリテーションの未来を描いていければと期待しております。本学会がその契機となり、参加者の皆さまにとって実りある学びと交流の場となることを心より願っております。